



≪ 津屋崎中学校 卒業証書授与式が行われました。 ≫

3月11日(金)津屋崎中学校の体育館で、「令和3年度 第75回 福津市立津屋崎中学校卒業証書授与式」が行われました。コロナ禍の式で、式の内容を縮小し、保護者の方の式場への入場については、各ご家庭で2名まで、教室へは1名とさせて頂きました。式当日、多くの拍手に包まれ、卒業生が、担任の先生に続いて胸を張って入場しました。担任の先生からの「卒業証書を授与されるもの」の呼名では、しっかりとした大きな声で「はい」と答えて立ち、代表がステージで卒業証書を渡される動きに注目していました。式の間、背筋を伸ばして、きちんと前を向き、式辞や告示等を聞いていました。卒業生代表の言葉(答辞)では、生徒会長を務めた西野優華さんが、堂々とステージ演台で立派に行いました。最後に、卒業の歌として「旅立ちの日に」を卒業生全員で、ステージひな壇で合唱しました。マスクをつけたままの合唱でしたが、心から、一生懸命に歌う卒業生の歌声は感動的でした。感極まって、涙する中、それぞれのクラスがクラスずつ担任の先生方へ、「感謝の言葉」を述べて退場しました。「さすが3年生、立派だ」と思える感動的な素晴らしい式でした。そして、教室では、担任の先生から、一人ひとりに、思い出を語りながら卒業証書が渡され、教壇の前に立って、生徒一人ひとりが、家族や先生、クラスの仲間に、感謝の言葉を述べていました。その後は、中庭などで記念撮影が行われ、先生や友達との別れを惜しむ姿が見られました。

≪ 学校長式辞：校長 清水 光朗 ≫

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの中学校生活は、2年間がコロナ禍となり、制限も多く大変であったことと思います。しかし、気持ちを切り替え前向きに取り組む皆さんの姿は、中学生として、とても立派でした。日々の授業で学ぶ姿、部活動での活躍、延期になった体育祭を盛り上げて頑張る姿、文化発表会の取組、松林清掃など、地域活動をしっかり行う姿、困っている人を助けたり、手伝ったりする行動力、生徒会活動・進路学習・清掃活動や入学試験に向けての勉強、真面目で、素直で、協力しあえるところ、一生懸命に頑張れるところが、たいへん素晴らしかったと思います。

さて、昨年のノーベル平和賞に、ロシアの新聞ノーバヤ・ガゼータの編集長、ドミトリー・ムラトフ氏が選ばれました。ムラトフ氏は「(受賞は)私の功績ではない。ノーバヤ・ガゼータの功績であり、命を落とした同僚たちの功績だ」と言っています。そして、「ジャーナリストの責務は真実とウソを見分けることだ」と述べ、メディアが抑圧されている現状と、真実を追求していくことの重要性を世界に訴えました。

～ 中略 ～

今、私たちは、戦争がない日本に生まれ平和に暮らしています。ありがたいことです。世界の住みたい国ランキングでも上位にあげられる、今の日本の良さを、再認識するところです。今の平和を作ってこられた先人の方々の、平和の維持や国民を守るために努力されている方々に感謝するとともに、国際社会がSDGsの目標達成に向けて努力しているなかで、私たちも、世界の平和を大切に考え、できる努力をしていかなければなりません。そのためには、今起こっていることから、目を背けず、世界の状況について、事実を知ることが必要です。そして、平和の祭典であるオリンピックやパラリンピックでは、勝ち負けだけを見るのではなく、選手を讃え、友好的な関係を、重視していくことが大切です。

卒業生の皆さん、これからも、しっかり勉強して、いろいろなことにチャレンジして行って下さい。これまで培ってきた経験を生かし、自分の力を高め、次の夢や目標を見つけ、その達成のため、努力を重ねて、一つでも、多く、自分自身の誇りや、自信となるものをつくって行って下さい。最後に、ここにいる一人の卒業生の感想を紹介します。「僕のチームメイトは、みんな練習に熱心で、誰にも負けたくないという強い気持ちで、切磋琢磨しながら頑張りました。キャプテンとして悩んだ時もありましたが、みんなが僕を支えてくれて本当に感謝しています。このチームのキャプテンになれたことを、とても誇りに思います。最高の思い出を、みんなと作れてとても嬉しかったです。みんなは僕の宝です。」彼は、目標と夢の実現のため、県外の高校へと進学して、頑張るそうです。以下、略

≪ 卒業生代表の言葉(答辞)：卒業生代表 西野 優華 ≫

暖かい日の光が降り注ぎ、桜のつぼみも膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たち三年生一同は卒業します。新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、無事、今日の日を迎えられたことに感謝しています。三年前の四月、この体育館で入学式をむかえてから、あっという間に月日が流れていきました。一年生。初

めのことばかりで戸惑いながらも、先輩方の背中を見て成長した一年でした。新しい友達との思い出が詰まった宿泊体験学習。いろいろな体験を通して、絆を深めた二日間はとても短く感じられました。二年生。先輩としての自覚をもち中学校生活を送った一年でした。色々な制限がある中、新しく創り上げた文化発表会。青、緑、オレンジ、黄色、それぞれのブロックで協力して完成させたモザイクアートに感動したのを今でも覚えています。三年生。最上級生となり、中学校生活最後の一年となりました。私たちがリーダーとなり優勝を目指した体育祭。繋～主役は君だ、笑顔、想い、未来へ～のテーマのもと、練習を頑張りました。何度も延期されましたが、目標をもってブロックを引っ張り、笑顔にしてくれたブロック長やリーダーのみんなはとても素晴らしかったです。自分のクラスはもちろん、ブロックをこえて応援する姿に、みんなの優しさが表れていました。小学校の時より、授業の難易度やスピードが上がる中、一生懸命に取り組んだ毎日の学習。他学年や同級生の友だちと必死になって練習に励んだ部活動。限られた時間の中、全力で取り組み、絆を深めた学校行事。一つ一つの思い出がよみがえってくる今、感謝の気持ちを伝えたい人がたくさんいます。

私たちの成長を見守ってくださった先生方。一人ひとりのことを大切に思い、ご指導してくださいました。授業では、私たちの夢の実現のために丁寧に教えてくださいました。また、先生方とともに頑張ってきた部活動は、私たちにとって忘れられない思い出になったと思います。わがままで反抗的だった私たちに、時には厳しく、時には優しく接してくださった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

いつもそばで支えてくれた家族。中学生になり、不安や悩みを抱えていた私の一番の相談相手は家族でした。嬉しいことがあれば、一緒に喜び、悲しいことがあれば、なぐさめ、次の目標へと背中を押してくれました。私たちを産んでくれて、そして育ててくれてありがとうございます。迷惑をかけるかもしれないけど、これからもよろしくお願いします。

これまで、ともに歩んできた三年生のみんな。私はみんなのことが大好きです。男女ともに仲が良く、素直な学年。困っている人がいれば助けてくれる学年。目標に向かって協力し合える学年。友達への信頼が厚い学年。私は何度もみんなに助けられてきました。私が今、ここに立てているのもみんなのおかげです。二年生のとき、修学旅行が延期になったことをきいて、とても残念に思ったことを覚えています。大阪や京都に宿泊することができませんでしたが、日帰りの修学旅行は行うことができました。この修学旅行は受験勉強やテスト勉強で忙しい三年生にとって、ひと時の楽しい時間となりました。この三年間は、私にとって宝物のような時間でした。私はみんなとの思い出を胸に、様々なことに挑戦していきます。私の友だちがみんなによかったです。今までありがとう。

これから。私たちは別々の道を進んでいきます。そばにみんながいなくとも寂しくて仕方ありません。でも、みんなの笑顔と元気を思い出して前を向こうと思います。そして、自信をもって歩いていきます。

【↓： 卒業式の様子】







《 津屋崎中学校 卒業式の前日、在校生からの送辞、卒業生からの記念品授与を行いました。 》

今年度もコロナ禍の式で、時間短縮のため、卒業式前日の「卒業証書授与式の練習」の中で、「在校生からの送辞」、「卒業生からの記念品授与」が行われました。在校生代表の送辞は、生徒会長：伊東 眺杏さんが行いました。卒業生からの記念品授与は、岩下夏蓮さんが代表で行いました。今年度、台風で運動場の時計が破損したため、困っていましたが、卒業生からの記念品で、運動場から見える位置に、壁掛け時計をつけてもらうことになりました。次年度の体育祭の練習等で、時間が一目でわかるようになり、とても助かります。

《 在校生、送辞： 伊東 眺杏 》

冬の寒さも和らぎ、春の暖かさが感じられる季節となりました。卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

海の香りが漂うこの津屋崎中学校での三年間を、今どのように振り返っているのでしょうか。かけがえのない思い出が頭に浮かんでいることと思います。

私達は学校生活の中で、いつも先輩方の大きな背中を見て過ごしてまいりました。今年もコロナの影響で、色々な行事が小さくなりましたが、様々な制限がある中、私達の先頭に立ち、リーダーシップを取ってくださり、本当にありがとうございました。

「絆（キズナ）#みんなが主役#笑顔#想い#未来へ」のテーマのもと、行われた体育祭。延期され、短い練習の中、「体育祭を成功させたい」という決意を胸に一生懸命指導してくださいました。本番のダンスパフォーマンスでは、どのブロックも練習の成果を発揮し、笑顔があふれる姿が見られました。この体育祭で先輩方から学んだ団結力、企画力、実行力など様々なことを次の体育祭で活かし、先輩方の体育祭を超えることを私達の目標に取り組んでいきたいと思ひます。

新しい伝統のもと行われた文化祭。合唱コンクールは行えませんでした。モザイクアートでは、素晴らしい作品を完成させることができました。それも、先輩方が丁寧に仕上げ、各学年で協力し、一生懸命取り組む姿があったからだと思ひます。また生徒会によるパフォーマンスや自分たちで作った作品を共有し、鑑賞したりなど、例年とは違った形でしたが絆を深めることができました。

そして、部活動では、日々の練習を通して共に一つの目標を目指す同志であり、仲間でもありました。机の上の勉強だけでは得られないかけがいのない多くのものを教えていただきました。私達は一步でも先輩方に近づけるよう、これからも努力を続けていきます。また、先輩方が築き上げてきた伝統を受け継ぎ、さらに良い津屋崎中学校へ発展させ、盛り上げていきたいと思ひます。

最後になりましたが、先輩方に「世界で一番貧しい大統領」で有名な南米、ウルグアイのホセ・ムヒカさんの言葉を送りたいと思ひます。

「人生で最も重要なことは勝つことではありません。歩み続けることです。それはつまり転んでも毎回起き上がること。新たに何かを始める勇気を持つということ。何かに打ち負かされたときにまた立ち上がるということです。」

先輩方はそれぞれの新しい道へ進まれます。辛いこと、困難や大きな壁にぶつかることもあると思ひます。そんな時、この津屋崎中学校で過ごした日々を思い出し、力強い一步を踏み出してください。在校生一同、新しい道で夢に向かって突き進まれる先輩方を心より応援しています。

今回、先輩方の旅立ちを見届けることができず残念ですが、卒業される皆様のご健康とさらなる飛躍をお祈りして、送辞といたします。

《 卒業式の前日、全校生徒で心を込めて会場準備・校内の清掃を行いました。 》

卒業生は、入学試験が終わったばかりで、すぐに卒業式ということで、練習や気持ちの準備、教室の片づけや卒業アルバムをもらったりと、あわただしい一日であったようです。1・2年生は、3年生の卒業に向けて、体育館・教室・校内の清掃等しっかりと行い、準備をしてくれました。また、当日はコロナ禍のため、生徒会役員の希望者のみが、在校生代表で式に参加し、きちんとした態度で卒業生を見送り、準備片付け等、よく働いてくれました。卒業式後は、部活動生が協力して、会場の後片付けを行ってくれています。生徒たちが良く働いてくれるので、とても助かっています。

